

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586017301	科目番号 / Subject code	05860173
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	国際社会を理解するための多様な視点 (東西文化交流の歴史)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	姫野 順一		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	姫野 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	姫野 順一, 源島 福己		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育B棟34		
対象学生(クラス等) / Object Student	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	suga@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	環境科学部		
担当教員TEL/Tel	095-819-2730		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火 14:30 ~ 16:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	この講義は、長崎を基点とする東洋と西洋の「知的交流の歴史」(Cross Intellectual History)を掘り下げ、国際交流における文化的・歴史的側面を理解し、国際人としての教養に基づいた態度と倫理の形成を図ろうとするものです。講義では自主性、思考力、判断力および表現力を尊重します。		
授業到達目標/Goal	長崎を中心とする海外交渉の歴史の概略を理解し、異文化交流における接点における摩擦や解決努力の苦勞、双方向への理解の浸透といった国際的な感覚の習得を目標とします。		
授業方法(学習指導法)/Method	歴史資料や視聴覚教材を用いて東西文化の交流の諸相を解説します。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	東西文化交流、日欧交渉史 長崎学 知性史 異文化接触		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	特になし		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	毎回配布される出席確認を含めたレポート評価による。		
受講要件(履修条件)/Requirements	特になし		
学生へのメッセージ/Message for students	関心のあるテーマに向けて自分で調査する習慣を身につけて欲しい。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	東西文化交流の歴史とグローバル社会 < 姫野順一 >		
第2回	オランダと長崎 < 姫野順一 >		
第3回	鎖国時代のアジアのなかの長崎 < 姫野順一 >		
第4回	日本観察者としてのシーボルト < 宮坂正英 >		
第5回	シーボルトを支えた長崎 < 宮坂正英 >		
第6回	毛氈から見た日・蘭・清の交易 < 砂崎素子 >		
第7回	オランダとポルトガルがもたらしたもの < 鈴木英明 >		
第8回	華人・華僑と長崎 < 鈴木英明 >		
第9回	寛政の改革以後の外交方針の変化と技術導入の関係 < 砂崎素子 >		
第10回	シーボルトの眼! 川原慶賀 < 原田博二 >		
第11回	文化交流と外国人居留地の生誕 < 市川智生 >		
第12回	文化交流と外国人居留地の活動 < 市川智生 >		
第13回	幕末開港の洋学: 坂本龍馬とその周辺 < 姫野順一 >		
第14回	写真術の伝来と外国人写真家の来航 < 姫野順一 >		
第15回	長崎の世界遺産とグローバル社会 < 姫野順一 >		
第16回	予備日		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/02/01		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586017701	科目番号 / Subject code	05860177
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	国際社会を理解するための多様な視点 (国際的視点に立った法と政治)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	嶋野 武志		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	嶋野 武志		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	嶋野 武志		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育 B 棟34		
対象学生 (クラス等) / Object Student	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	shimano@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	産学官連携戦略本部		
担当教員TEL/Tel	095-819-2876		
担当教員オフィスアワー / Office hours	11:00 ~ 17:00		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければならない。しかも、国際的交流が飛躍的に増加すると考えられる21世紀においては、自らが生活する国・地域の法のみならず、異なる歴史・文化を有する国・地域の法についても理解できる能力を養っておくことが重要である。</p> <p>この科目においては、国際法に関わる交渉に参加した経験を有する教員の指導の下、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、さらには国際社会を規律する国際法を概観し、法の多様性を理解するとともに、そうした法を生み出す場である政治の現実についても学ぶことを通じ、グローバル化が進展する世界において必要とされる人間の多様性を理解することのできる能力を養う。</p>		
授業到達目標 / Goal	法や政治の問題を考えることを通じて、法、さらには人間の多様性を理解しうる能力を身に着けることにより、そうした多様性を前提としながらも、社会を安定的に営んでいくために必要な「利害調整能力」の基礎を確立する。		
授業方法 (学習指導法) / Method	法や政治の問題を考えるのに際しては、まず基本となる知識が不可欠なため、基本的には講義形式を採用するが、法や政治に関わる問題が如何に身近なものであるかを実感してもらうとともに、現実の問題に対して、如何に多様な解決方法があるのかを知ってもらうために、具体的な例を討議するグループディスカッションも行うこととする。		
授業内容 / Class outline / Con	可能な限り関連時事問題の解説を行うので、以下の予定を変更する可能性があることに留意されたい。 また、受講生の人数を踏まえたグループディスカッションの導入も検討するため、その関連での変更もありうることを申し添える。		
キーワード / Key word	法、法の背景としての歴史・文化、法を生み出す政治、利害調整、多様性		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	特になし。(但し、授業開始後、必要に応じて指定することはある。)		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	レポート及び試験を通じて行う。 法、さらには人間の多様性を理解する態度が見られるかどうかを特に評価する。		
受講要件 (履修条件) / Requirements	特になし。(但し、我が国の法が重要な題材となるため、日本語を解せることが望ましい。)		
学生へのメッセージ / Message for students	特になし。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	導入部分として、そもそも法とは何かを学ぶ。 まず我々の生活や社会のどのようなところに法が登場するのか、そうした法はどのように形成されるのかを学ぶ。		
第2回	法についての様々な思想や歴史を学ぶ。 これにより、法とは誰かから与えられるものではなく、社会が生み出していくものであることを理解する。		
第3回	民事に関する法について学ぶ。(民法1) まず財産法について、身近な取引や契約、交通事故に関わる損害賠償などの事例について、どのような問題がどのように解決されているかを学ぶ。		

第4回	民事に関する法について学ぶ。(民事法2) ここでは、家族法について、結婚・離婚、相続などの実例を通じて、どのような問題について、どのような解決が行われているかを学ぶ。
第5回	次に企業活動に関する法について学ぶ。 ここでは、企業とは何か、企業は誰によってどのように作られるのか、その取引においてどのような問題が生じるのかについて学ぶ。
第6回	刑事に関する法について学ぶ。 人が罰せられるのはどのような場合か、何故罰せられるのか、罰する場合の手続はどのようになっているのかなどを知ることにより、刑事法の基礎を学ぶ。
第7回	国家に関する法である憲法・行政法を学ぶ。 ここでは、国家の運営、国家と国民の関係などについて学ぶ。
第8回	その他の法について学ぶ。 労働法や環境法など、現代において重要性を増している分野の法を紹介する。
第9回	第7回が終了した時点でレポートを作成し、そのうちのいくつかを題材として議論を行う。 これにより、国内法に関わる問題であっても、極めて多様な考え方が成り立ちうることをあらためて実感する。
第10回	次に、英米法やヨーロッパ法など、代表的な外国法を概観する。これにより、歴史や文化が異なる国・地域では、類似の問題であっても、異なる解決が行われることを理解する。
第11回	国際社会を規律する国際法について学ぶ。 国内法と国際法の共通する部分と、紛争解決システムなどの異なる部分を理解する。
第12回	法に対する一定の理解を前提に、法を生み出す政治の現実を学ぶ。 まず身近なところとして、国内法について、現実に如何なる「利害調整」が行われているかを学ぶ。
第13回	ここでは、我が国の政治史を概観し、法を生み出す政治における「利害調整」のあり方も時代により異なることを理解し、法、さらには人間の多様性を学ぶ。
第14回	国際法を生み出す国際政治の現実を学ぶ。 特に、各国の利害が正面から衝突する国際通商交渉を例にとり、国際的な場で如何なる「利害調整」が行われているかを学ぶ。
第15回	国際政治についても、時代により、地域により、様々な「利害調整」が行われてきたことを知り、法、さらには人間の多様性を学ぶ。
第16回	試験を行う。

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586025501	科目番号 / Subject code	05860255
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	国際社会を理解するための多様な視点 (科学技術と社会)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山下 俊一		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	山下 俊一		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	山下 俊一		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育B棟34		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会学部・教育学部・経済学部など		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	shun@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	坂本地区原爆後障害医療研究所放射線災害医療分野		
担当教員TEL/Tel	095-819-7116		
担当教員オフィスアワー/Office hours	毎週月曜日午後5時~6時		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>現代科学技術社会は過去の歴史を振り返っても指数関数的な発展を遂げています。一方では、個々の人生は寿命が延び、日本のみならず世界中が80歳前後の平均寿命への傾向が強まり、少子高齢化の現代社会では、地域格差や貧富の格差が増大する中で、グローバル化が進展していることも事実です。「能ある鷹は爪を隠す」という言葉と同時に、「群盲像をなでる」の状況にある現代社会では、見えざる競争世界にあることも事実です。そこで、グローバルな情報氾濫の中で、個人的な不安、不信、不満などを乗り越えて、さらに不確実な未来予想の中で、社会の常である混乱と矛盾、不条理を乗り越える必要が求められています。であればこそ、現代の科学技術の進歩と社会との関係を「虫の目と鳥の目」という現場感覚と同時に、大所高所からの視点で俯瞰したいと思います。</p> <p>本授業は主として文系の学生が受講するものですが、理系の論理的思考法、とりわけリスク分析と評価、その管理対応法を学ぶことが不可欠です。現場力を生かして、グローバル社会に不可欠な、国境を越えた問題を論理的に取り上げます。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>現場力を生かして、グローバル社会に不可欠な、国境を越えた問題を論理的に取り上げる能力を養成します。これら地球規模課題では、世界史、地理が基本ですが、同時に、理系の知識と技術が、経済学や経営学、そして政治学などの基礎となると言えます。課題解決の自助努力、すなわち提示された講義内容への予習と質疑応答を基本とし、グローバル社会に置ける日本の立ち位置を考え、長崎と言う地域にあり、個々人がどのような人生設計を考えるのか内在する異能を発掘し、現代科学社会の光と影の理解を到達目標とします。</p>		
授業方法 (学習指導法) /Method	<p>主として45分間の講師による講義あるいは事例研究など課題提示と、その後30分間の建設的な議論を班を編成して科目ごとに取組みます。単なる受動的な講義ではなく、積極参加型の講義とする為に予め準備する講義形式を採用します。場合によってはアンケート調査や能力開発の小テストも活用します。グローバルな話題と長崎との関連性から科学技術社会の課題解決に向けた講義を行います。</p>		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	環境、経済、エネルギー、教育、人間、社会、国際		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先端技術と人間; 21世紀の生命・情報・環境、加藤尚武著、NHKライブラリー2001年</li> <li>2. 空洞化のウソ; 日本企業の現地化戦略、松島大輔、講談社現代新書2012年</li> <li>3. 世界を変えた経済学の名著; 日経ビジネス文庫、日本経済新聞編集2013年</li> <li>4. 日本未来図2030; 自由民主党国家戦略本部編、日経BP2014年</li> </ol>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>毎回の講義に対する授業参加度と積極的関与度の小計30%と、最終試験70%を加味して100%として成績を評価する。試験内容は各講義から抽出された代表的な記述質問10問を中心とし、グローバルな視点から考える能力と課題解決に資する思考力が反映された記述内容を基準とする。</p>		
受講要件 (履修条件) /Requirements	<p>海外ニュースに触れて、疑問を持って講義を拝聴すること。講義科目予定の内容について自主的な予備知識を準備して受講すること。</p>		
学生へのメッセージ/Message for students	<p>「一寸の光陰を軽んずべからず」と「少年老い易く、学成り難し」を肝に据えて、勉学、スポーツ、芸術、文化などに勤しみ、青春時代を謳歌することを期待する。</p>		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		

第1回	自己紹介とプレテスト
第2回	時代考証と社会；各学部の教養力を問う
第3回	事例研究 原発事故と長崎大学
第4回	事例研究 世界のエネルギー事情と石油関連事業
第5回	事例研究 国連機関と規制科学
第6回	事例研究 生命の誕生と死の意義；存在と所有
第7回	事例研究 リスクに関する取組（1）
第8回	事例研究 リスクに関する取組（2）
第9回	科学技術と社会に関する最近の動向
第10回	旧ソ連における科学技術と社会
第11回	欧州における科学技術と社会
第12回	アジアにおける科学技術と社会
第13回	アフリカにおける科学技術と社会
第14回	アメリカにおける科学技術と社会
第15回	最終テスト；記述式思考力テスト
第16回	